

【 果 樹 】

果実全般的に末端消費は鈍く、リンゴやミカン、生柿といった仲卸の在庫が散見される状況となっており、各品目で相場を弱め荷動き改善に向けた販売となっている。

生柿を除き、今後も各果実とも潤沢な入荷が見込まれ、売り込みを強める販売となる見通し。

<リンゴ>

「サンふじ」中心の販売で、全体量の増加に伴い、流通在庫も増えている状況にある。末端の消費が鈍く、荷動きは重いため、相場は弱保合展開の見通し。

@特秀 28玉 3,400～2,800円 秀 2,800～2,300円 ○秀 2,300～1,800円 赤秀 1,800～1,700円

@特秀 32玉 3,000～2,700円 秀 2,500～2,400円 ○秀 2,200～1,800円 赤秀 1,800～1,700円

<あんぽ柿>

「平核無」については、他産地の入荷も多く、軟調な販売が続いている。販売状況に大きな変化は無く、相場は保合展開の見通し。

@平核無 200gトレイ 特秀 4L・3L 400円～380円

【 野 菜 】

野菜全般に荷動きは非常に重く、特に重量野菜や葉菜類は流通在庫を抱えながらの販売となっている。寒さと気温高の日が安定しないため、消費も定まらず量販店のバイヤーも何を販売すれば売れるのか消費動向を把握しづらい状況。次週は本格的な冬となる見込みから、鍋商材や加熱商材の引き合いは見込まれる見通し。

<いちご>

11月下旬からは、近在産地（栃木・茨城）の頂果房がピークとなる見込みから、今後も相場を下げながら、量販店の売り場確保・拡大を優先した販売となる見通し。

@2L 600円～500円 A 500円～430円

<にら>

栃木県産は秋作終盤で出荷量減少が見込まれるが、西南暖地産は横ばいの入荷となる見込み。寒さの影響で注文も増えているが、保合展開となる見通し。

@AL 80円～75円

<春菊>

露地作の減少により全体量も微減傾向となるが、荷動きの重い環境が見込まれるため、苦しい販売が続く見込みだが、引き続き売り込みを継続する販売環境であり、相場は保合展開の見通し。

@単価：A 80円～70円